

すめらみこと おほきさきとも
天皇・太后共に大納言藤原家に幸す日に、
もみてる沢蘭一株抜き取り、内侍佐々貴
やまのきみ
山君に持たしめ、大納言藤原卿と陪従の
だいぶら
大夫等とに遣し賜ふ御歌一首
みゆふよ
命婦誦みて曰く

四二六八番

この里は 継ぎて霜や置く 夏の野に 我が見し草は
もみちたりけり

十一月八日に、左大臣橘朝臣の宅に在して
しえん
肆宴したまふ歌四首

四二六九番

よそのみに 見ればありしを 今日見ては 年に忘れず
おも
思ほえむかも

四二七〇番

むぐら延ふ 賤しきやども 大君の まさむと知らば
たまし
玉敷かましを

四二七一番

松陰の 清き浜辺に 玉敷かば 君来まさむか 清き
はまへ
浜辺に

四二七二番

天地に 足らはし照りて 我が大君 敷きませばかも
あめつち
たの
楽しき小里